

分野:器官系統病態学

主科目 副科目	産婦人科学 Obstetrics and gynecology	区分	選択必修	授業形態	演習 (講義・実習含む)
------------	------------------------------------	----	------	------	-----------------

担当	教授	准教授	講師	助教	客員教授・その他
板橋	◎綾部 琢哉 梁 栄治 西井 修 梁 善光 五十嵐 敏雄 (病院教授)	木戸 浩一郎 藤本 晃久 笹森 幸文 (病院准教授)	土谷 聡 司馬 正浩 松本 泰弘 長阪 一憲 平池 春子	杉原 武	
-					
-					

	産婦人科学Ⅰ (1年次)				産婦人科学Ⅱ (2年次)				産婦人科学Ⅲ (3年次)			
	単位	4単位	配当年次	1年・通年	単位	4単位	配当年次	2年・通年	単位	4単位	配当年次	3年・通年
概要	<p>講義:外来での妊婦健診・入院患者の診療を通じ、妊娠における母体変化・母体合併症が妊娠に及ぼす影響・妊娠が母体合併症に及ぼす影響についての講義を受講する。</p> <p>演習:妊婦の超音波検査を上級医の指導のもとに行い、胎児発育過程・胎児生理学に関する診断演習を行う。診療録の記載方法を演習する。</p> <p>実習:分娩に立ち会い、正常分娩経過と胎内環境の変化、急速遂娩の要否とその決定のタイミングを実習する。</p>				<p>講義:入院患者の診察を通じ、子宮ならびに卵巣の良性疾患・悪性疾患の病態生理、病理診断の概要と診断の意味について講義を受講する。</p> <p>演習:外来患者の診療にあたる上級医の補助につき、患者からの情報収集方法・外来での診察方法・検査の組み立てとその実践に関する演習を行う。</p> <p>実習:手術に立ち会い、解剖学的知識の確認・それぞれの手技の持つ意味についての学習を行い、実際の手技について実習する。</p>				<p>講義:内分泌動態とその破綻による病態・内分泌系に關与する薬剤と薬理作用・効果と副作用についての講義を受講する。</p> <p>演習:妊娠成立過程・不妊症検査の原理と意味を理解し、その組み立て方・検査結果の説明法・治療の実践について演習する。</p> <p>実習:腹腔鏡・子宮鏡・卵管鏡の意義について学習し、外来診療や手術室におけるそれぞれの手技について実習する。生殖補助医療の実際を見学し、配偶子の操作を実習する。</p>			
到達目標	<p>①妊娠における母体変化・母体合併症と妊娠との関係を修得する。正常妊婦の健診・入院患者の診療ができる。</p> <p>②妊婦の超音波検査を行い、胎児の発育過程・生理学所見を説明できる。</p> <p>③正常分娩を上級医の立ち会いのもとで取り扱うことができる。急速遂娩の要否とその決定のタイミングを説明でき、帝王切開の助手として立ち会うことができるようになる。</p>				<p>①子宮ならびに卵巣の良性疾患・悪性疾患の病態生理、病理診断の概要と診断の意味について修得する。</p> <p>②外来患者からの情報収集方法・診察方法・検査の組み立てとその実際を説明できる。</p> <p>③手術の助手をつとめ、解剖学的所見・それぞれの手技の持つ意味について説明できる。基本的な手術を執刀できる。</p>				<p>①内分泌動態とその病態・内分泌系薬剤と薬理作用・効果と副作用について修得する。</p> <p>②不妊症検査の原理と意味を理解し、その方法・検査結果の説明法・実践について説明できる。</p> <p>③腹腔鏡・子宮鏡・卵管鏡の意味について説明し助手として補助することができる。配偶子の操作について説明することができる。</p>			
事前事後学修	<p>①正常妊娠経過と母体の変化・胎児の発育について確認しておくこと。</p> <p>②正常分娩の経過を確認しておくこと。</p> <p>③異常妊娠・分娩について確認しておくこと。</p> <p>1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。</p>				<p>①婦人科腫瘍について確認しておくこと。</p> <p>②良性腫瘍とその治療目的について確認しておくこと。</p> <p>③悪性腫瘍の進展様式、病理診断について確認しておくこと。</p> <p>1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。</p>				<p>①月経周期について確認しておくこと。</p> <p>②月経周期の異常・内分泌機能の異常とその検査方法について確認しておくこと。</p> <p>③妊娠の成立過程とそれぞれに対する診断方法について確認しておくこと。</p> <p>1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。</p>			
評価方法	妊婦健診における診療内容(50%)。胎児超音波検査の正確性(20%)。正常分娩介助技術(10%)。帝王切開時の操作(20%)。全体的に理解不十分と判断された場合はレポート提出を求める。				婦人科疾患の病態生理に関する口頭試問(50%)。手術時の解剖学的理解に対する口頭試問(30%)。手術手技の正確性(20%)。全体的に理解不十分と判断された場合はレポート提出を求める。				婦人科内分泌動態に関する口頭試問(60%)。不妊症患者への説明の正確性(20%)。腹腔鏡操作の正確性(20%)。全体的に理解不十分と判断された場合はレポート提出を求める。			

■主な演習(講義・実習含む)

	産婦人科学Ⅰ (1年次)	産婦人科学Ⅱ (2年次)	産婦人科学Ⅲ (3年次)
板橋	月 曜日 13 : 30 ~ 15 : 00 臨床カンファレンス	月 曜日 15 : 00 ~ 16 : 00 腫瘍カンファレンス	月 曜日 17 : 00 ~ 18 : 00 月経周期と内分泌・不妊症
	火 曜日 13 : 30 ~ 16 : 00 産科超音波診断実習	月 曜日 16 : 00 ~ 17 : 00 臨床検討会	火 曜日 13 : 30 ~ 15 : 30 子宮卵管造影・子宮鏡演習
	水 曜日 13 : 30 ~ 15 : 00 胎児の発育と生理機能の変化	火 曜日 9 : 00 ~ 10 : 30 婦人科腫瘍の病態生理	木 曜日 9 : 00 ~ 17 : 00 腹腔鏡・卵管鏡手術
	木 曜日 13 : 30 ~ 16 : 00 産科超音波診断実習	火 曜日 9 : 00 ~ 17 : 00 婦人科手術実習	木 曜日 13 : 30 ~ 15 : 00 出生前診断演習
	金 曜日 15 : 30 ~ 17 : 00 周産期ミーティング	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :

教科書・参考書

産婦人科研修の必修知識 2016-2018 日本産科婦人科学会 編集・発行

その他履修上の注意事項

板橋病院、溝口病院、ちば総合医療センターそれぞれの指導教官の得意領域を鑑み、講義、演習、実習の場所を自由に選択することも可能である。上記の学習内容は板橋病院での例であるが、同等のレベルの内容を溝口病院、ちば総合医療センターでも履修可能である。

口頭試問での応答に対し、講義・実習・演習の中で、解説等のフィードバックを行う。

履修中に専門分野を決め論文を作成するが、専門以外の分野についても目標に到達していると判断する場合には学位申請が可能である。

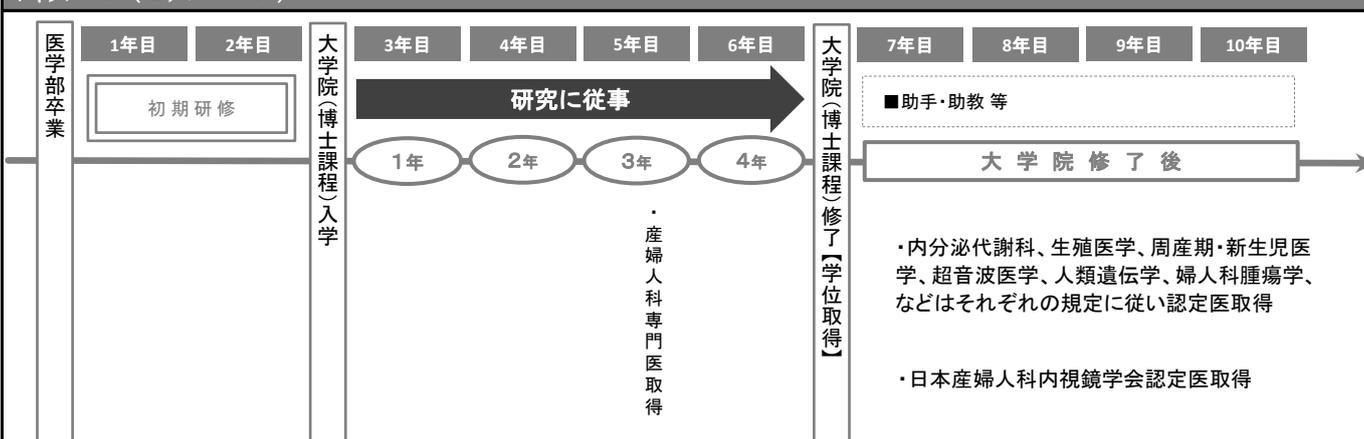
この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

関連科目	副科目	新生児学、小児科学、乳腺腫瘍学、臨床腫瘍学、緩和医療学、放射線診断学・放射線腫瘍学
	共通科目	周産期医学特論

関連する専門医資格

①日本産科婦人科学会あるいは専門医機構による専門医資格を取得後、②日本内分泌学会内分泌代謝科、日本生殖医学会、日本周産期・新生児医学会、日本超音波医学会、日本人類遺伝学会、日本婦人科腫瘍学会、日本産婦人科内視鏡学会などの専門医を取得できる。

キャリアパス(モデルコース)



※社会人枠のキャリアパスについては各講座にお問い合わせください